

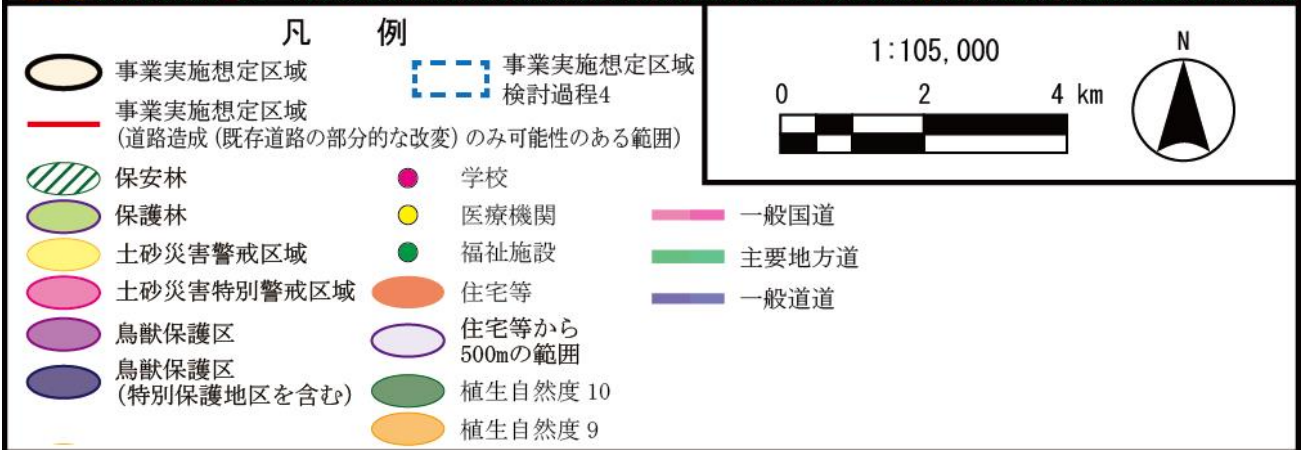
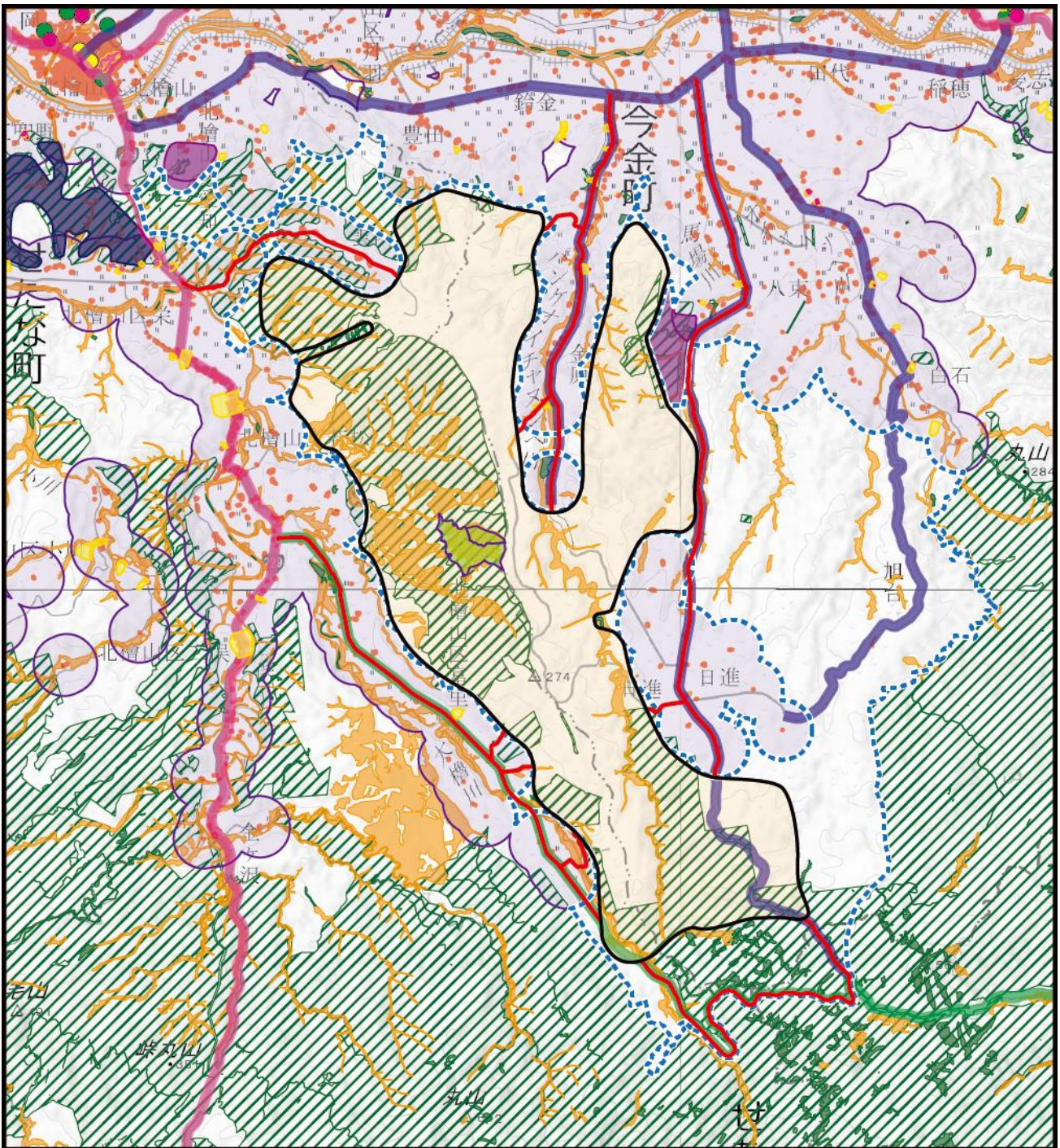
検討過程 4 内部の自然度 10 については、図の表記上区域内に存在するようには見えるが、実際は検討過程 4 内部には含まれていない。

凡 例

- 事業実施想定区域
検討過程4
- 学校
- 医療機関
- 福祉施設
- 住宅等
- 住宅等から 500m の範囲
- 植生自然度 10
- 植生自然度 9

1:105,000





第3章 事業実施想定区域及びその周囲の概況

事業実施想定区域及びその周囲^{*}における自然的状況及び社会的状況について、環境要素の区分ごとに事業特性を踏まえ、計画段階配慮事項を検討するに当たり必要と考えられる範囲を対象に、入手可能な最新の文献その他の資料により把握した。

3.1 自然的状況

3.1.1 大気環境の状況

1. 気象の状況

事業実施想定区域の周囲の地域気象観測所としてせたな地域気象観測所及び今金地域気象観測所があり、概要は表 3.1-1、その位置は図 3.1-1 のとおりである。

表 3.1-1 事業実施想定区域の周囲の地域気象観測所

観測所名	所在地	緯度経度	海面上の高さ	風速計の高さ	観測項目				
					気温	風向・風速	降水量	日照	積雪
せたな	久遠郡せたな町瀬棚区本町	北緯 42° 27.0' 東経 139° 51.1'	10m	10m	○	○	○	○	—
今金	瀬棚郡今金町今金	北緯 42° 25.7' 東経 140° 0.5'	19m	10m	○	○	○	○	○

注：「○」は観測が行われていること、「—」は観測が行われていないことを示す。

[「地域気象観測所一覧（令和5年3月23日現在）」（気象庁HP、閲覧：令和5年5月）より作成]

^{*} 第2章の図 2.2-1(3)の範囲とした。

(1)動物相の概要

事業実施想定区域及びその周囲の動物相の概要は表 3.1-13 のとおりである。

事業実施想定区域及びその周囲では、哺乳類 40 種、鳥類 174 種、爬虫類 2 種、両生類 3 種、昆虫類 913 種、陸産貝類 5 種、淡水魚類 48 種、底生動物 213 種が確認されている。

表 3.1-13(1) 動物相の概要

分類	No.	文献その他の資料	調査範囲	確認種数	主な確認種
哺乳類	①	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第2回動植物分布調査）」（環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和5年5月）	事業実施想定区域及びその周囲（図 3.1-13 に示す 4メッシュ）※1	4種	ヒメトガリネズミ、コキクガシラコウモリ、ヒメホオヒゲコウモリ、モモジロコウモリ、ユキウサギ、 キタリス（エゾリス） 、アカネズミ、ヒメネズミ、ヒグマ、タヌキ、キツネ、ホンドテン、ニホンイタチ、オコジョ、ニホンジカ等 (40種)
	②	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第4回動植物分布調査）」（環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和5年5月）		7種	
	③	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第5回動植物分布調査）」（環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和5年5月）		1種	
	④	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第6回動植物分布調査）」（環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和5年5月）		4種	
	⑤	「第7回自然環境保全基礎調査 特定哺乳類生息状況調査」（環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和5年5月）	北海道（渡島）	2種	
	⑥	「コウモリ分布 環境アセスメントデータベース EADAS（イーダス）」（環境省 HP、閲覧：令和5年5月）	今金町、せたな町、八雲町※2	5種	
	⑦	「北海道市町村別コウモリマップ」（道北コウモリ研究センターHP、閲覧：令和5年5月）		8種	
	⑧	「北海道からコヤマコウモリの初記録」（佐藤雅彦ほか、平成31年）	上ノ国町※2	1種	
	⑨	「北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック2001」（北海道、平成13年）	今金町、せたな町、八雲町	0種	
	⑩	「北海道環境データベース」（北海道 HP、閲覧：令和5年5月）	事業実施想定区域及びその周囲（図 3.1-13 に示す 4メッシュ）	15種	
	⑪	「日本の哺乳類 改訂2版」（財団法人自然環境研究センター、平成20年）	今金町、せたな町、八雲町	33種	
	⑫	「瀬棚町史」（瀬棚町、平成3年）	旧瀬棚町（せたな町）	13種	
	⑬	「北檜山町史」（北檜山町、昭和56年）	旧北檜山町（せたな町）	13種	
	⑭	「大成町史」（大成町、昭和59年）	旧大成町（せたな町）	7種	
	⑮	「三訂八雲町史 上巻」（八雲町、平成25年）	八雲町	0種	
	⑯	「三訂八雲町史 下巻」（八雲町、平成25年）	八雲町	0種	
	⑰	「改訂今金町史 上巻」（今金町、平成3年）	今金町	2種	
	⑱	「河川環境データベース」（国土交通省 HP、閲覧：令和5年5月）	後志利別川（対象地域周辺）	15種	

注：表中の※は以下のとおりである。

※1：コウモリ類に対しては、今金町、せたな町及び八雲町の3町全域にかかる2次メッシュを調査範囲としている。

※2：ハイリスク種に分類されるコウモリ類に対しては、渡島半島全域を調査範囲としている。

(2)生態系の概要

地域の生態系（動植物群）を総合的に把握するために、文献その他の資料により確認された事業実施想定区域及びその周囲の環境及び生物種より、生物とその生息・生育環境の関わり、また、生物相互の関係について代表的な生物種等を選定し、食物連鎖の概要として整理した。食物連鎖模式図は図 3.1-30 のとおりである。

事業実施想定区域及びその周囲は主に自然林、二次林及び植林地といった樹林、草原・低木林、河辺、耕作地等といった草地環境、河川・池沼といった水域が存在している。

陸域の生態系では、シラカンバーミズナラ群落、トドマツ植林、ススキ群団（Ⅴ）、ヨシクラス、水田雑草群落等に生育する植物を生産者として、第一次消費者としては**セミ類やバッタ類、ガ類やチョウ類**等の草食性の昆虫類や、ユキウサギ等の草食性の哺乳類が、第二次消費者としてはオサムシ類やトンボ類、**クモ類**等の肉食性昆虫類等が存在する。また、第三次消費者としてはキタリス（**エゾリス**）、ヒメネズミ等の哺乳類やキビタキ等の鳥類、エゾアカガエル等の両生類が、第四次消費者としてはイタチ等の哺乳類、モズ等の鳥類、シマヘビ等の爬虫類が存在すると考えられる。さらに、低次消費者を餌とする高次消費者として、キツネ等の中型哺乳類やオジロワシ等の猛禽類が存在すると考えられる。

水域の生態系では、付着藻類等を生産者として、第一次消費者である底生動物が、**ニホンアマガエル**等の両生類やエゾウグイ等の魚類に捕食される。さらに、これらを餌とするアオサギ、ミサゴ等の鳥類が存在すると考えられる。

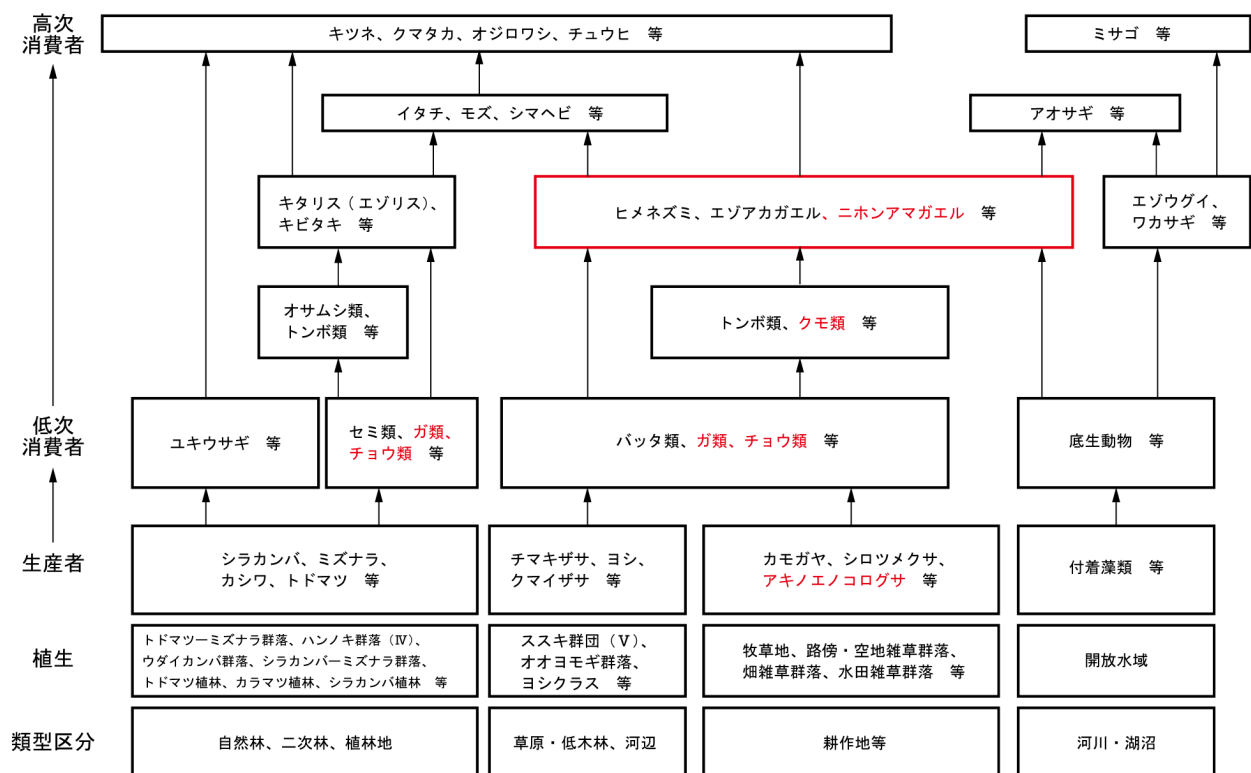
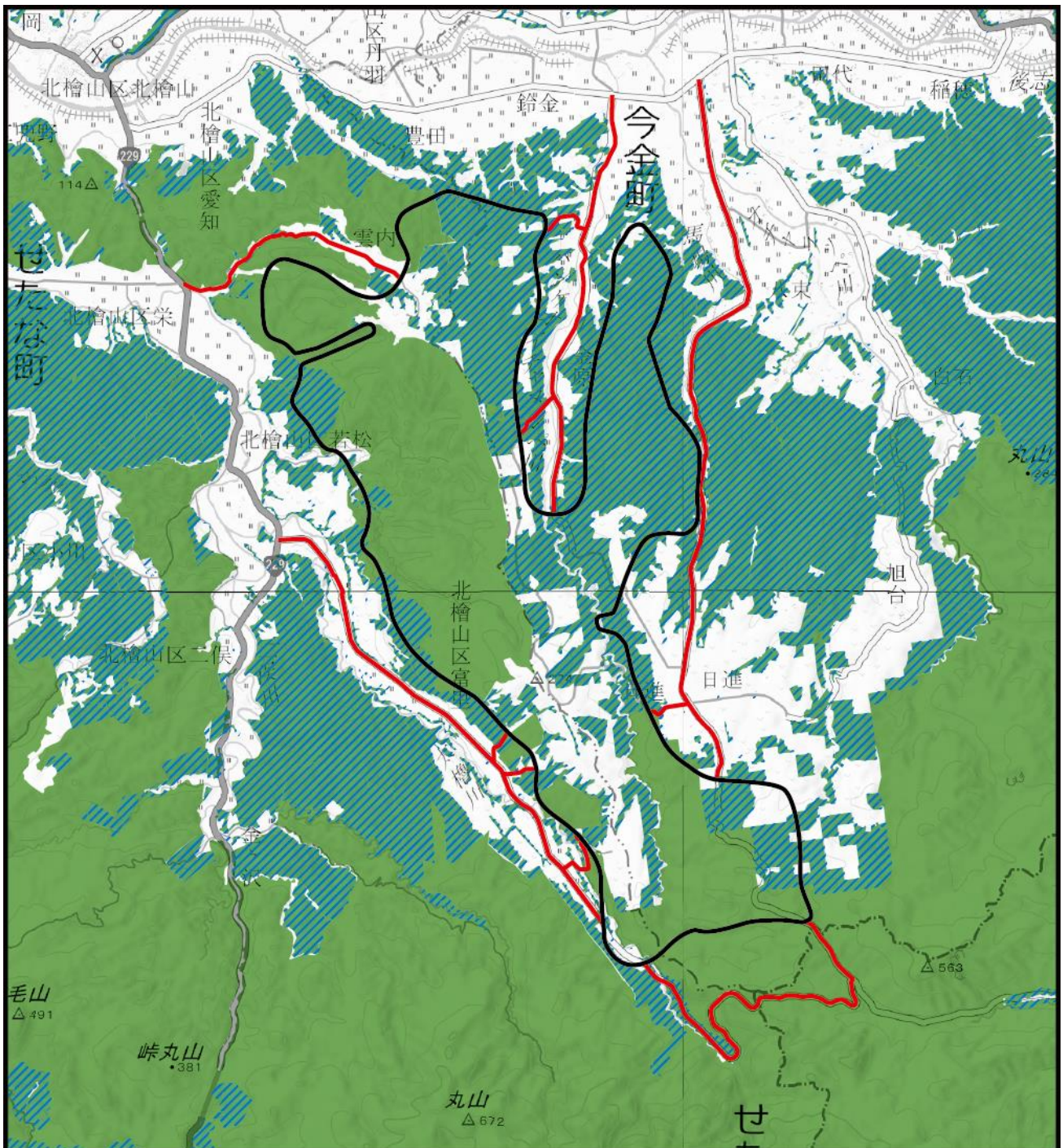






図 3.1-30 食物連鎖模式図

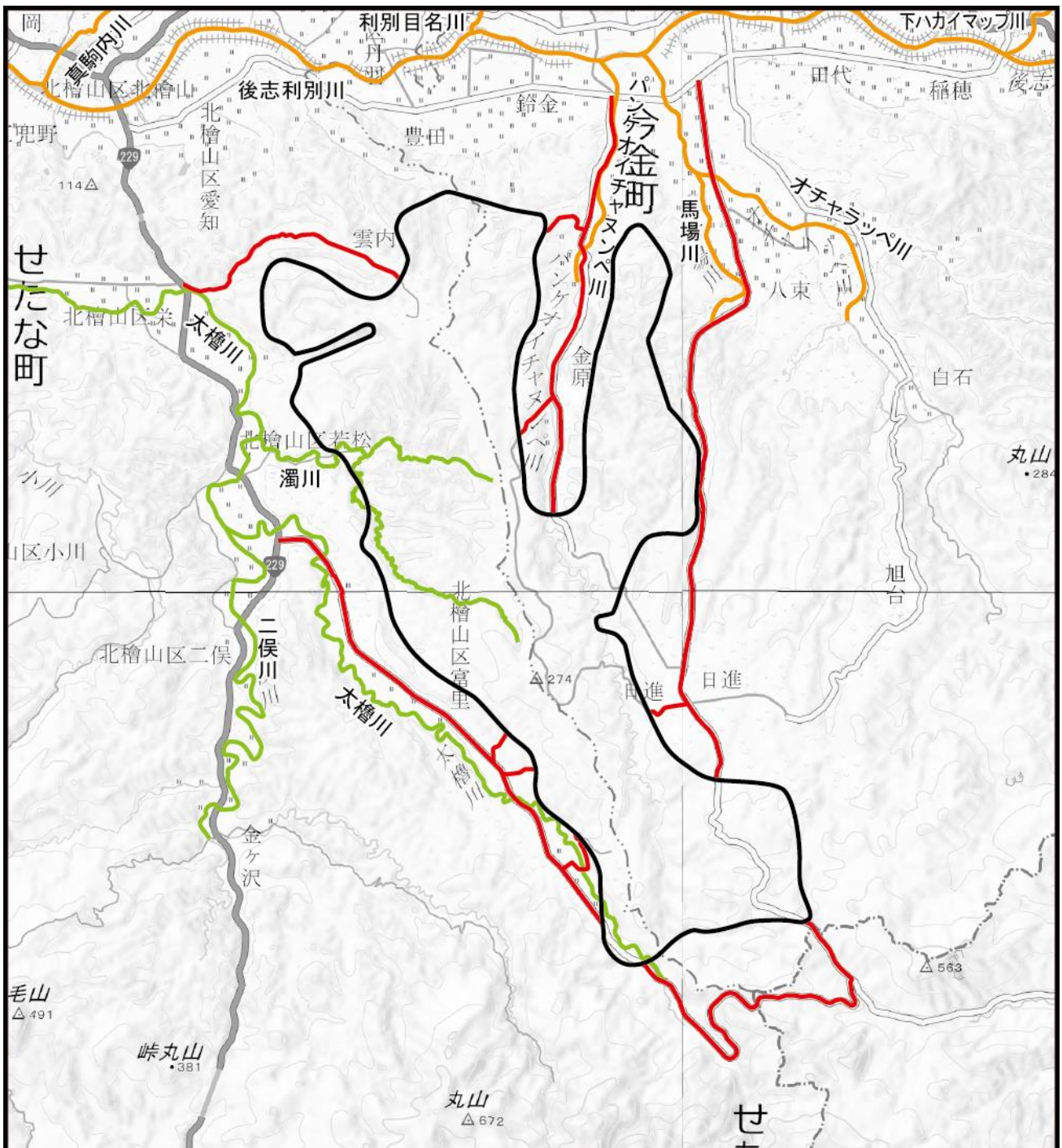


凡 例





-  事業実施想定区域
-  事業実施想定区域
(道路造成(既存道路の部分的な改変)のみ可能性のある範囲)
-  森林地域
-  地域森林計画対象民有林

1:105,000



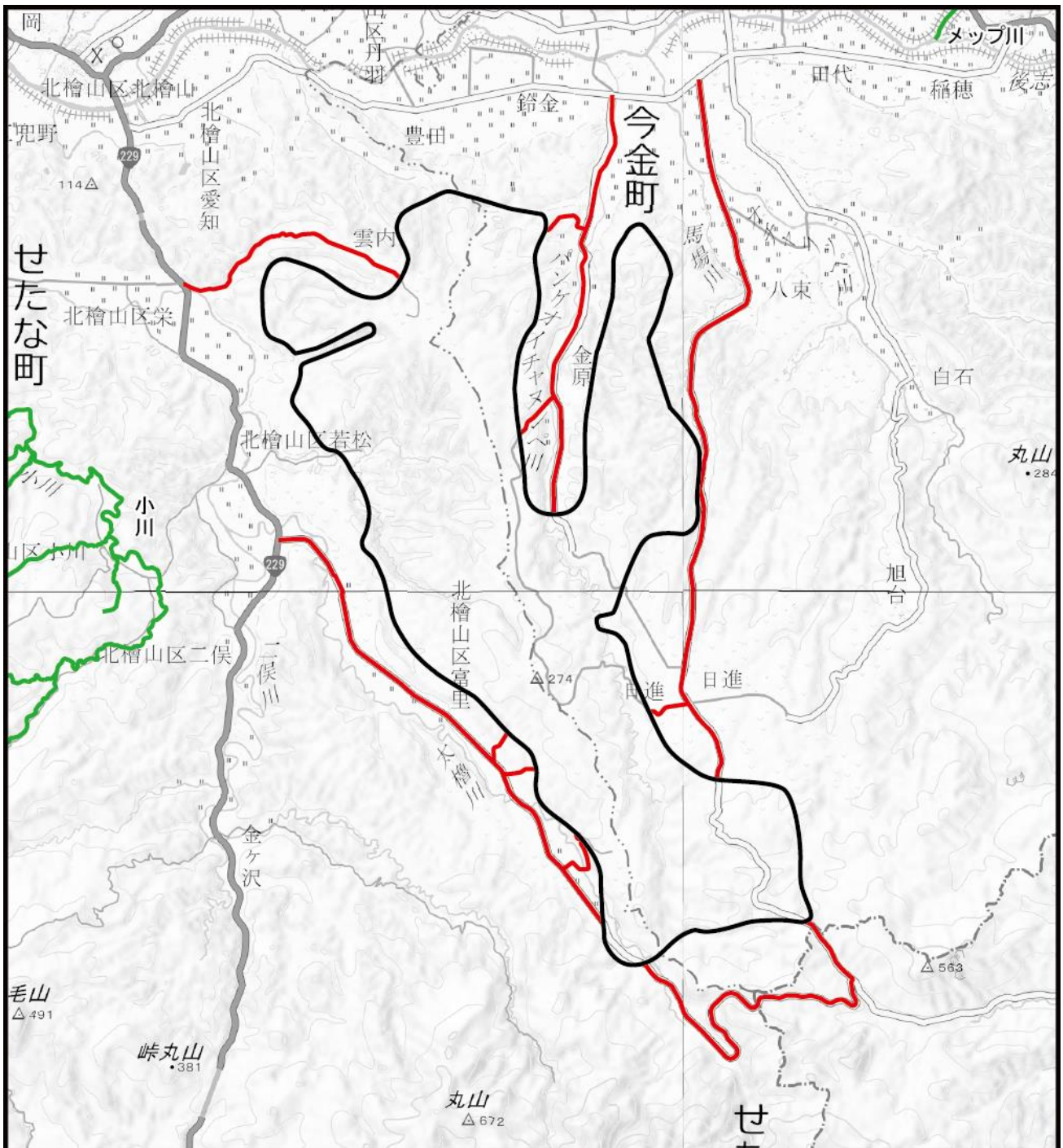


凡 例




-  事業実施想定区域
-  事業実施想定区域
(道路造成(既存道路の部分的な改変)のみ可能性のある範囲)
-  檜内共第2号
-  檜内共第3号

1:105,000





凡 例

-  事業実施想定区域
-  事業実施想定区域
(道路造成 (既存道路の部分的な改変) のみ可能性のある範囲)
-  保護水面

1:105,000



2. 予 測

(1) 予測手法

事業実施想定区域と重要な種の生育環境、重要な植物群落及び巨樹・巨木林の重ね合わせにより、直接的な改変の有無による生育環境の変化に伴う影響を整理した。

(2) 予測地域

事業実施想定区域とした。

(3) 予測結果

文献その他の資料による現存植生図と事業実施想定区域を重ね合わせた結果は図 4.3-5、現存植生図の凡例は表 4.3-14 のとおりである。

事業実施想定区域及びその周囲の植生は、トドマツ植林及びシラカンバーミズナラ群落が多く分布しており、河川沿いにはヤナギ低木群落(Ⅳ)、オオヨモギ群落等の植生が分布している。事業実施想定区域には、トドマツ植林、シラカンバーミズナラ群落等の植生が主に分布しており、中央部には植生自然度9に相当するトドマツミズナラ群落、南側には植生自然度9に相当するチシマザサブナ群集(Ⅳ)等が見られる。他にも牧草地、ダケカンバ群落(Ⅴ)等も一部に分布している。また、チシマザサブナ群集(Ⅳ)はブナ林である可能性が高く、この地域のブナ林は生育分布の北限近くに位置しており、重要な植生である。

① 重要な種

重要な種に対する予測結果は表 4.3-21 のとおりである。

表 4.3-21(1) 植物の重要な種への影響の予測結果

主な生育環境	種 名	影響の予測結果
樹林	ウチワゴケ、ヒメノキシノブ、オオエゾデンダ、マツブサ、オクエゾサイシン、カタクリ、エビネ、キンセイラン、ナツエビネ、サルメンエビネ、ユウシュンラン、クゲヌマラン、モイワラン、シュンラン、コアツモリソウ、クマガイソウ、イチヨウラン、コイチヨウラン、トラキチラン、カモメラン、ツリシュスラン、クシロチドリ、ギボウシラン、アリドオシラン、コフタバラン、ヒメムヨウラン、サカネラン、ジンバイソウ、ヒロハトンボソウ、イイヌマムカゴ、ヒメシャガ、キタササガヤ、イカリソウ、フクジュソウ、サンリンソウ、ヤマシャクヤク、ベニバナヤマシャクヤク、マルバマンサク、クロミノハリスグリ、モミジバショウマ、ヤマネコノメソウ、マルバチャルメルソウ、ヤグルマソウ、エゾエノキ、ヤエガワカンバ、ナガハシスミレ、エゾミズタマソウ、キブシ、クロビイタヤ、タチハコベ、クシロワチガイソウ、ヤブコウジ、オオウメガサソウ、カイジンドウ、ミヤマママコナ、キヨスミウツボ、バアソブ、キッコウハグマ、ミネアザミ、キツタ (60 種)	事業実施想定区域に主な生育環境が存在し、その一部が改変される可能性があることから、生育環境の変化に伴う影響が生じる可能性があると予測する。
草地、耕作地等	ムカゴソウ、ヤマトキソウ、アオツヅラフジ、フタマタイチゲ、クサボタン、シラネアオイ、クロミサンザシ、エゾサンザシ、チョウノスケソウ、カラフトイバラ、オオバタチツボスミレ、ミヤマハナシノブ、ホソバナツルリンドウ、チョウジソウ、バシクルモン、エゾノクサタチバナ、スズサイコ、ムラサキ、メハジキ、キセワタ、ヤマジソ、キキョウ、キタノコギリソウ、フォーリーアザミ、オナモミ、ベニバナヒヨウタンボク (26 種)	

表 4.3-21(2) 植物の重要な種への影響の予測結果

主な生育環境	種 名	影響の予測結果
水辺（河川、河畔等）、湿地	リシリビヤクシン、ホソバノシバナ、クロユリ、ヒメアマナ、カキラン、ヒメミズトンボ、ミズトンボ、トキソウ、ミズアオイ、エゾミクリ、ミクリ、タマミクリ、チシマミクリ、ナガエミクリ、ヒメミクリ、ヒメガマ、セキショウイ、ムツオレグサ、ヒエガエリ、チトセバイカモ、エゾノチャルメルソウ、アズマツメクサ、ヒロハノカワラサイコ、ベニバナイチゴ、ゴキヅル、ノウルシ、タニマスミレ、ワサビ、ヒメタデ、ヤナギヌカボ、ナガバノウナギツカミ、サデクサ、カラフトノダイオウ、ノダイオウ、ヌマハコベ、サクラソウモドキ、クリンソウ、オオサクラソウ、サクラソウ、ヤチツツジ、ヒメツルコケモモ、ヒメハッカ、タヌキモ、ヤナギタウコギ、ムカゴニンジン、ヌマゼリ (46種)	事業実施想定区域に主な生育環境が存在するものの、河川等は直接改変を行わないことから、影響はないと予測する。一方で、工事実施箇所によっては、濁水の流入等による生育環境への一時的な影響が生じる可能性があるとして予測する。
海岸、海域等	イソスミレ、ピレオギク (2種)	事業実施想定区域に主な生育環境は存在せず、事業の実施による改変はないことから、影響はないと予測する。
その他（岩場等）	イワヒバ、チャボカラマツ、コモチレンゲ、イワオウギ、キンロバイ、エゾノタカネヤナギ、エゾオトギリ、モイワナズナ、タカネグンバイ、ミツモリミミナグサ、エゾマンテマ、イワカガミ、チシマツガザクラ、ヒメイソツツジ、エゾムラサキツツジ、イワヨモギ、ウスユキソウ、ミヤマウイキョウ、エゾヒョウタンボク、チシマヒョウタンボク (20種)	事業実施想定区域に主な生育環境は存在せず、事業の実施による改変はないことから、影響はないと予測する。

注：種名及び配列については原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和4年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省、令和4年）に準拠した。